

第2章 町田市の子どもを取り巻く状況

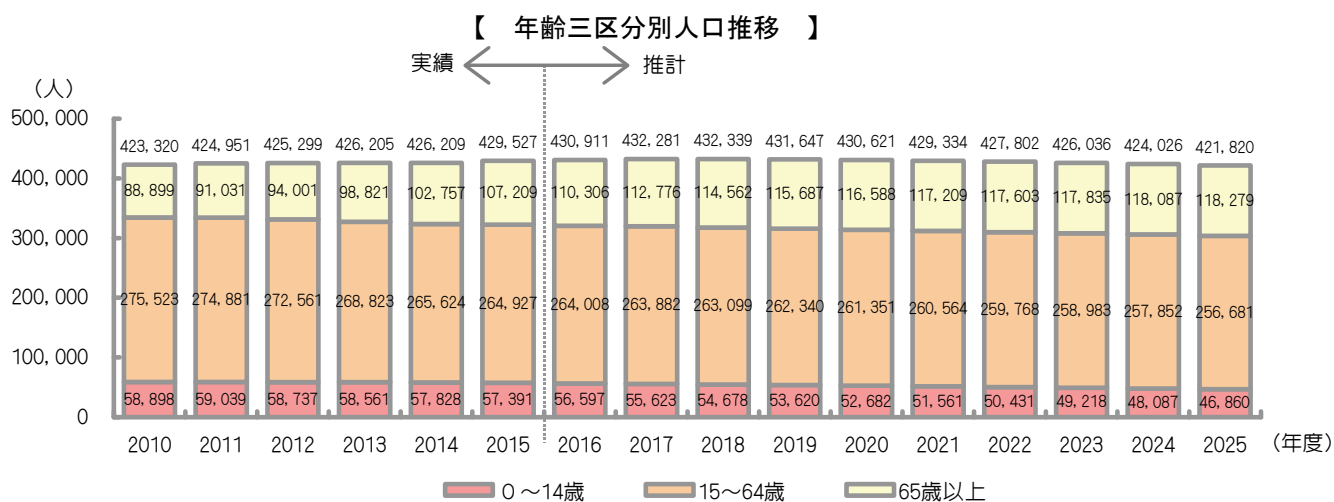
1 町田市の子どもと家庭

(1) 人口の推移

本市の人口推移をみると、総人口は増加しており、2015年4月1日現在で429,527人となっています。

年齢三区分別人口推移をみると、2011年以降、0～14歳、15～64歳は減少しているのに対し、65歳以上は増加傾向にあります。

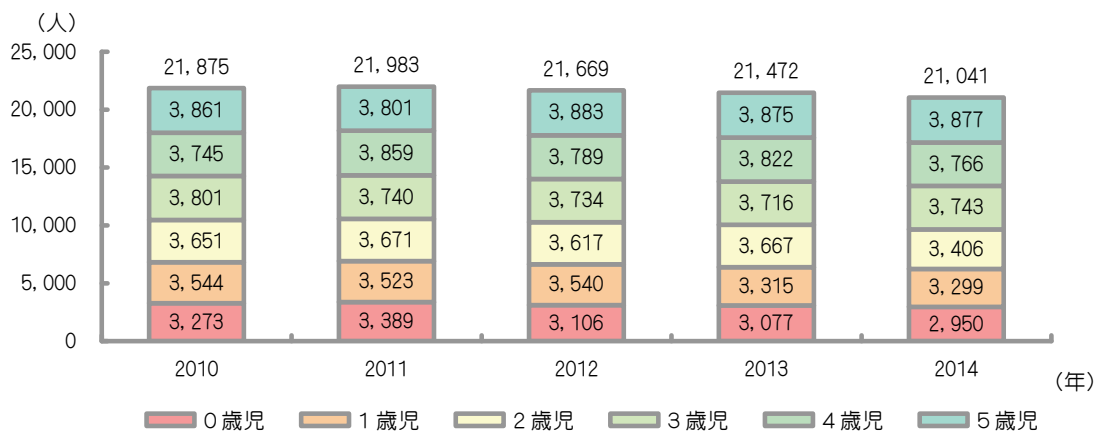
本市の将来人口は、2018年まで微増すると予測されていますが、年少人口は今後も減少し続け、2023年には5万人を切ると見込まれています。



資料：町田市「年齢別人口表」「外国人登録人口」（各年4月1日現在）
※ 推計人口は町田市将来人口推計

本市の0～5歳までの人口推移をみると、2010年以降減少傾向にあり、2014年1月1日現在で21,041人と、2010年に比べ834人減少しています。

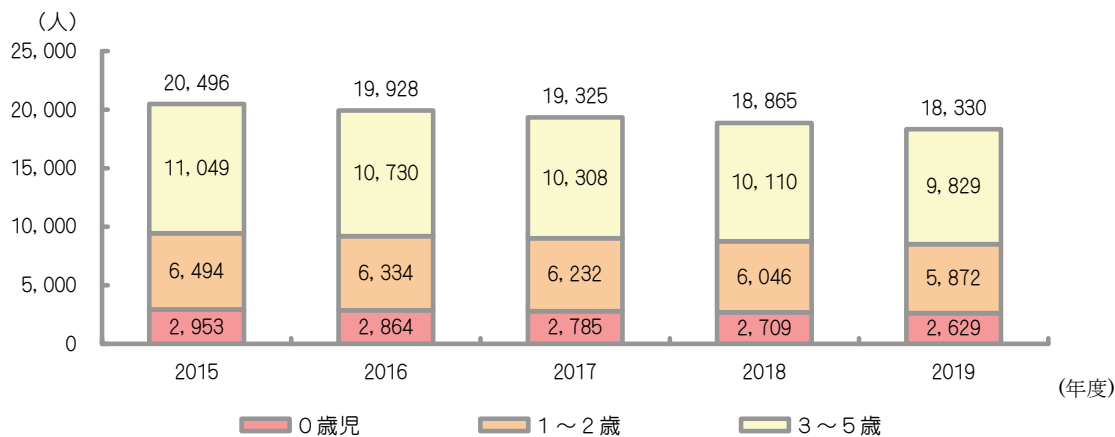
【 0～5歳までの人口推移 】



資料：町田市統計書「人口」（各年1月1日現在）

0～5歳までの人口推計をみると、各年齢層で2015年度以降減少が続くとされ、2019年度には18,330人になると推測されます。

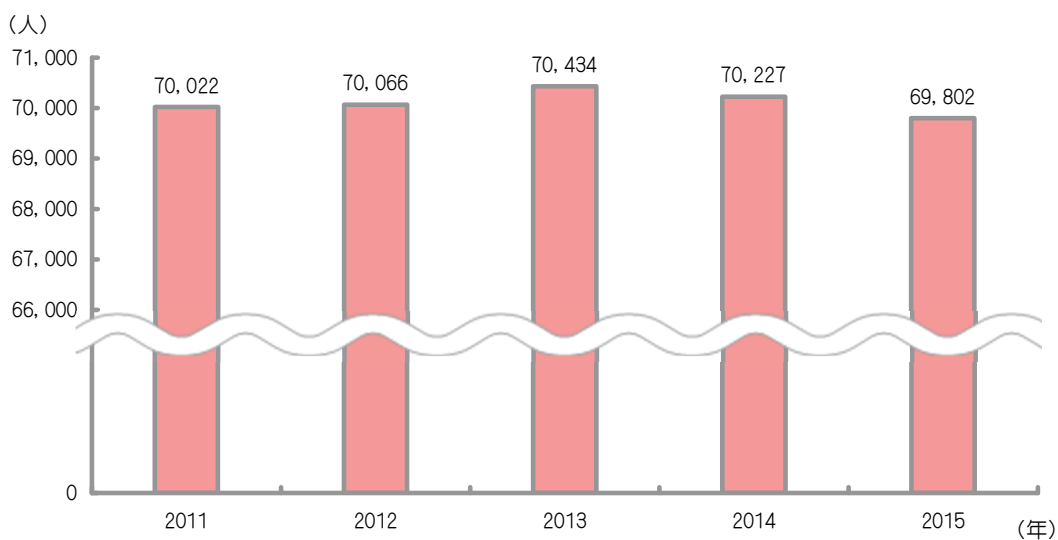
【 0～5歳までの人口推計 】



資料：町田市「年齢別人口表」「外国人登録人口」（各年4月1日現在）

0～18歳未満の人口推移をみると、2013年をピークに年々減少しており、2015年1月1日現在で69,802人と、2011年に比べ220人減少しています。

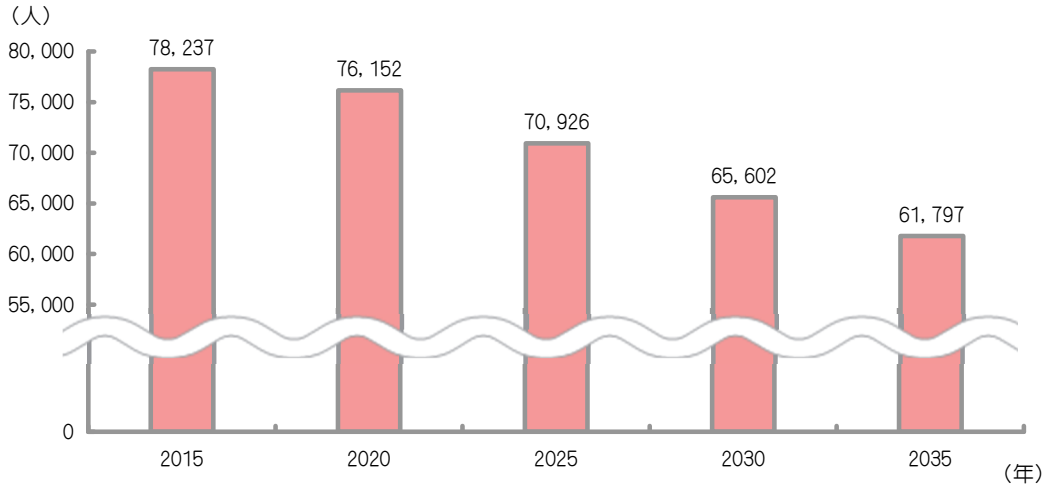
【 0～18歳未満の人口推移 】



資料：町田市統計書「人口」（各年1月1日現在）

0～19歳までの人口推計をみると、2015年以降減少が続くとされ、2035年には61,797人になると推測されます。

【 0～19歳までの人口推計 】

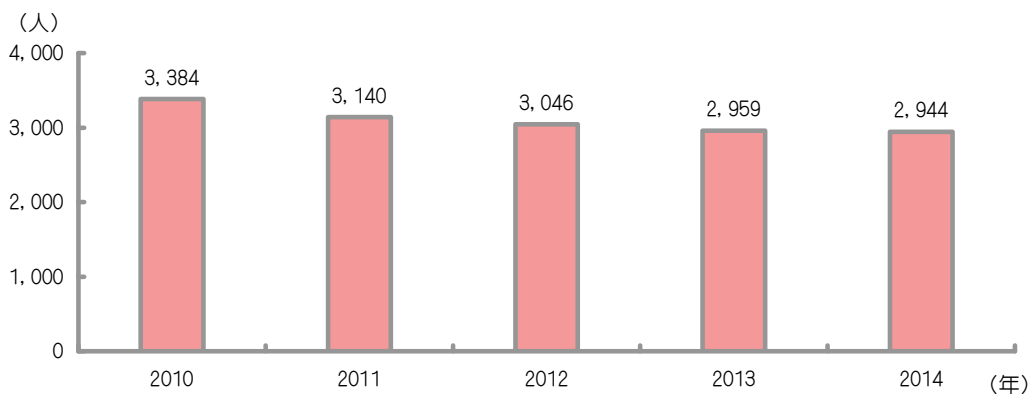


資料：町田市将来人口推計

(2) 出生数の推移

本市の出生数の推移をみると、2010年から年々減少し、2014年には2,944人と440人減少しています。

【 出生数の推移 】

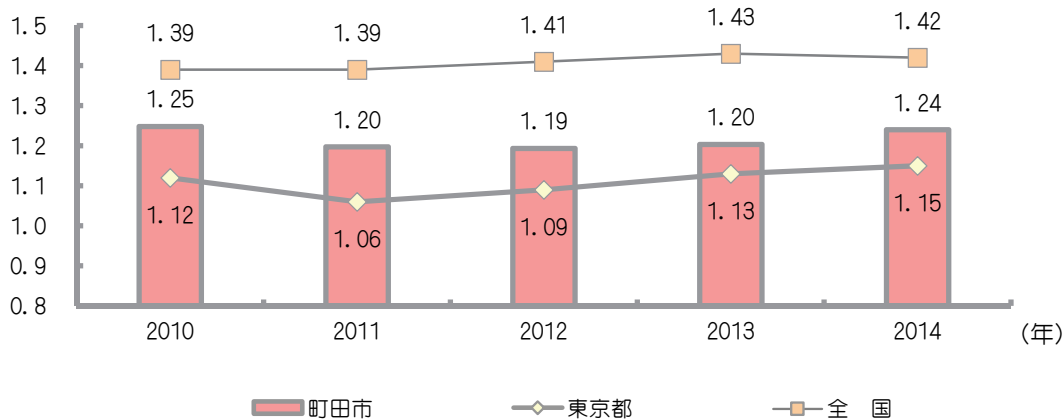


資料：東京都福祉保健局「人口動態統計」

(3) 合計特殊出生率

合計特殊出生率*の推移をみると、東京都を上回っているものの、全国の平均を下回る水準で推移しています。2014年においては東京都のポイントを0.09ポイント上回り、1.24となっています。

【 合計特殊出生率の推移 】



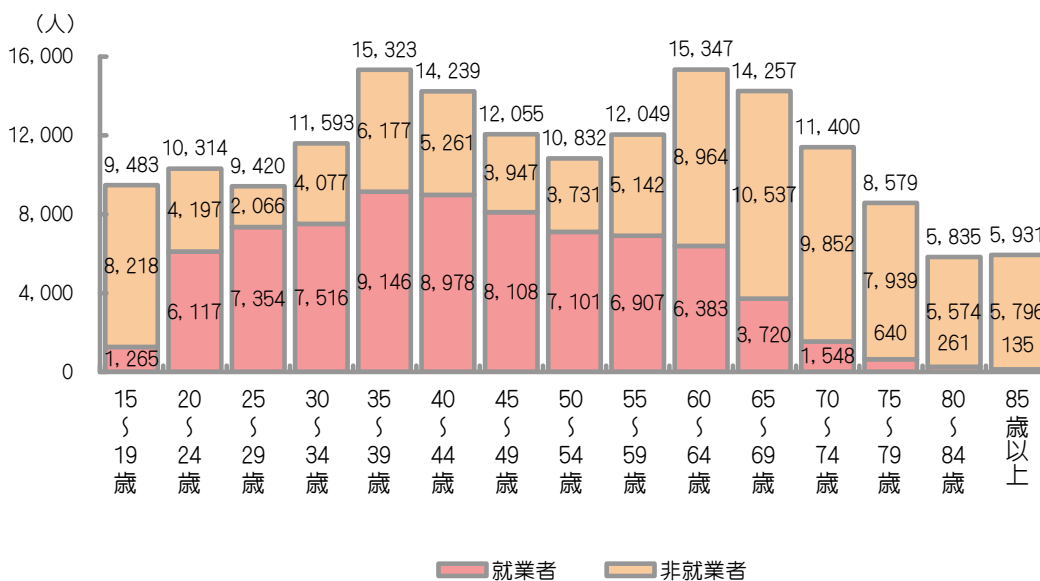
資料：東京都福祉保健局「人口動態統計」
全国は厚生労働省「人口動態統計」

*合計特殊出生率とは、1人の女性が生涯に産むとされる子どもの数

(4) 女性の就労状況

本市の女性の年齢別就労状況（2010年）をみると、35～39歳まで就業者が増加しているのに対し、40～44歳以降は減少しています。

【 女性の年齢別就労状況（2010年） 】

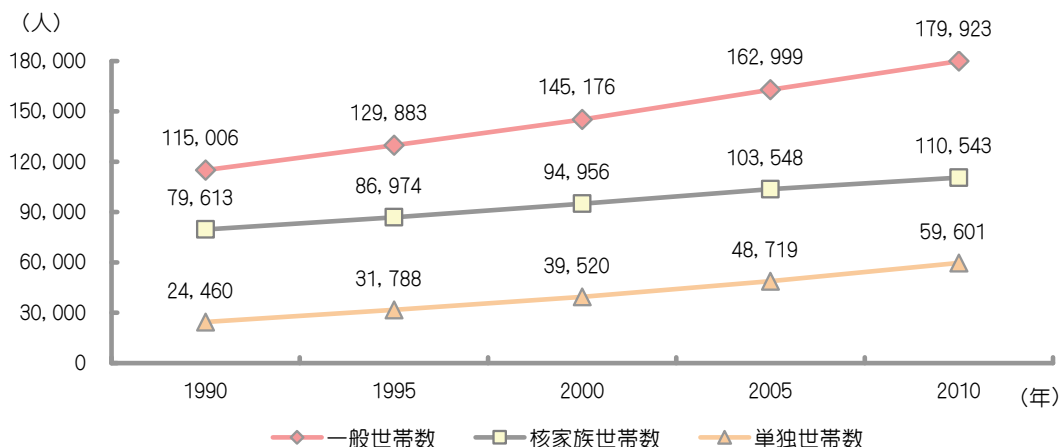


資料：総務省統計局「平成22年国勢調査」

(5) 核家族世帯

本市の核家族世帯数*1の推移をみると、一般世帯数*2、単独世帯数*3とともに年々増加しており、2010年で110,543世帯となっています。

【 核家族世帯数の推移 】



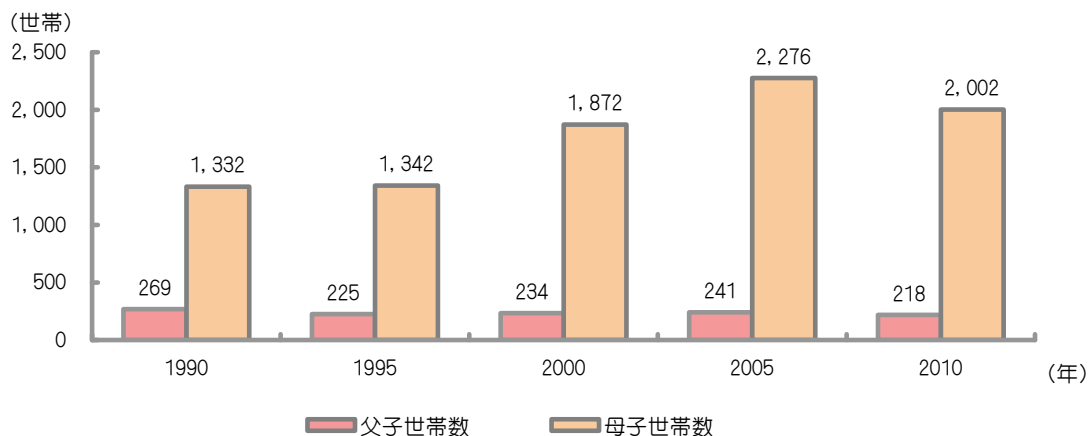
資料：総務省統計局「国勢調査」

- *1 核家族世帯とは、夫婦のみの世帯、夫婦と子どもから成る世帯
- *2 一般世帯とは、住居と生計を共にしている人の集まり、又は1戸を構えて住んでいる単身者(学生の寮や寄宿舍、社会施設の入所者などの施設等の世帯は除く)
- *3 単独世帯とは、世帯人員が1人の世帯

(6) ひとり親の世帯の状況

本市のひとり親世帯数の推移をみると、父子世帯数が減少傾向にあるのに対し、母子世帯数は年々増加傾向にあり、2010年で2,002世帯になっています。

【 ひとり親世帯数の推移 】



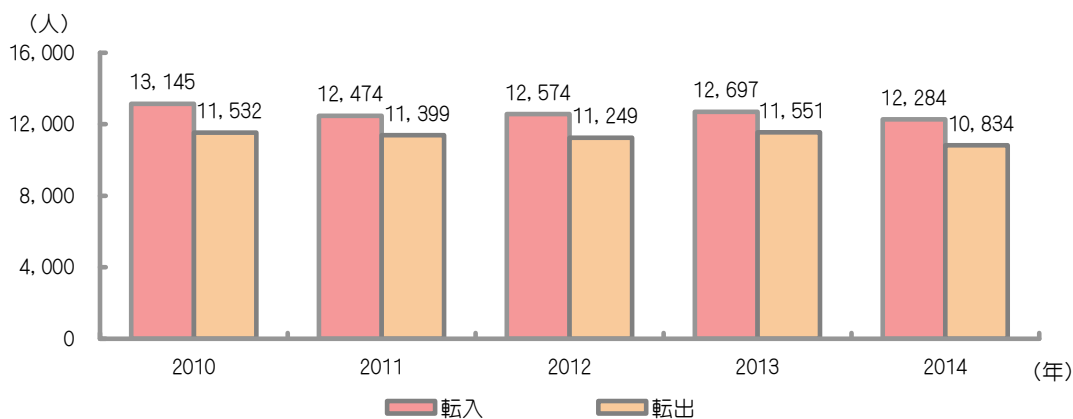
資料：総務省統計局「国勢調査」

(7) 転入・転出者

本市の転入・転出者数の推移をみると、転入が転出を上回る状態が続いています。

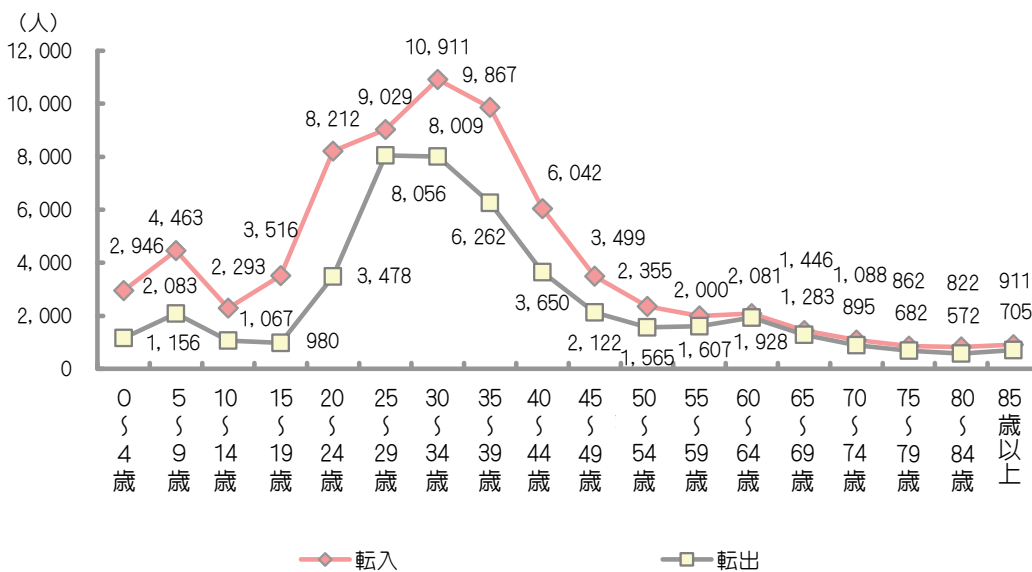
年齢別でみると、20～30歳代が転入・転出者の半数を占めており、特に20～24歳、35～39歳で転入が転出を上回る人数が多くなっています。

【 転入・転出者数の推移 】



資料：東京都総務局「人口の動き」

【 年齢別転入・転出者数（2010年） 】

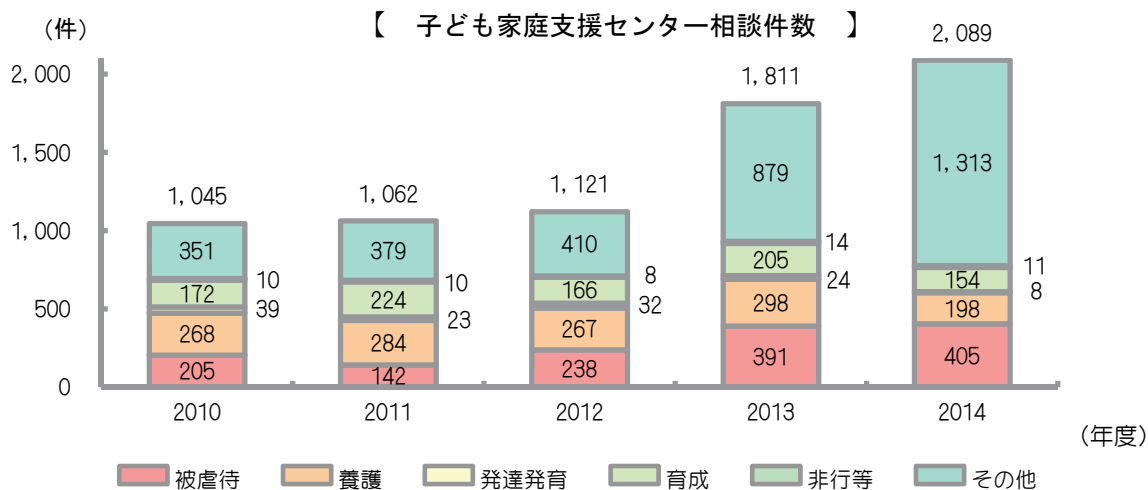


資料：総務省統計局「平成22年 国勢調査」

(8) 子ども家庭支援センター相談件数

子ども家庭支援センターの相談件数の推移をみると、年々増加傾向にあります。また、虐待に関する相談の増加が大きく、2014年度には405件となっています。

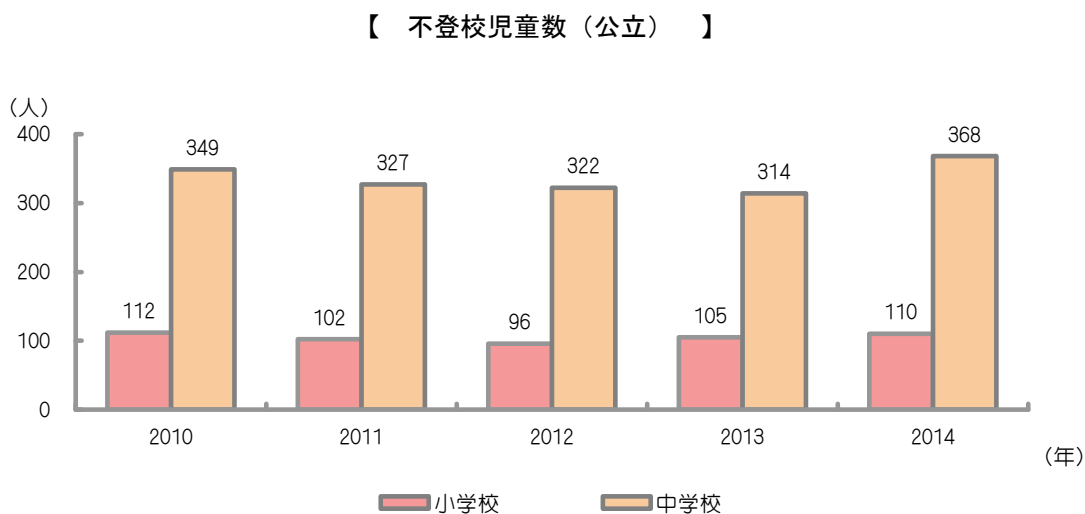
※2013年度以降は、集計方法が変更になったため、件数が大幅に増加しています。



資料：子ども家庭支援センター

(9) 不登校児童数

不登校児童数（公立）の推移をみると、小学校はほぼ横ばいで推移しています。一方、中学校では2013年度まで減少傾向にありましたが、2014年度で368人と増加しています。



資料：町田市統計書「理由別長期欠席生徒数（公立）」